

自問教育の会



EOSA Education of Self-Asking

発行日：2015（平成27）年4月18日 No.7

発行者：自問教育の会（会長：小林慎一）

編集：自問教育の会事務局（丸山 斉藤 白澤 吉川 牧 新津 北村 片岡）

事務局：長野県塩尻市大字大小屋61番地 塩尻市立塩尻中学校内 丸山博

連絡先：TEL0263-52-7852 FAX0263-51-1600

URL：<http://jimon.3zoku.com/>

問い合わせ先：<http://jimon.3zoku.com/php/sformmail.html>

会長挨拶

清掃と少年の心

小林 慎一 会長

「東京の桜は満開、お花見で賑わっている」と開花情報が伝わってきますが、ここ信州では、「桜の蕾もふくらんで・・・」が卒業式や入学式のお祝いの枕詞になっているほど・・・。信州では三月十七日前後に卒業式、四月の六日前後に入学式が行われます。学校ではこの二つの大行事を前にして改めて清掃の持つ意味が確認され、指導が行われます。感謝、心を込めて最後までやり通す等、心の成長と清掃が結びつけられていきます。清掃が、場所をきれいにするだけに留まらない心を育てる大切な日々の教育活動として位置づけられているのです。

さて、毎日私の校長室に掃除に来ていた六年生の男の子の話をします。彼は、いつも黙って精一杯、いろんなところに気づいて清掃をしていましたが、不思議にいつも何か考え事をしているようでした。深刻に悩んでいることが顔に表れていましたが掃除の手を休めることはありませんでした。ある日、私に「相談したいことがあります」と、話しかけてきました。「サッカ

ーをこれからも続けていきたいのだけれど、中学に行って部活をやるか、クラブチームを続けるか」二つのうち一つに決めないといけない、というのです。クラブチームの監督さんにはクラブチームで続けるようにと言われ、答えを求められ悩んでいたのです。部活で、中学校の友達とサッカーをやりたい、クラブの監督さんの言うようにもっとうまくなりたい、と深刻な葛藤をしていたのです。一緒に考えた末、私の意見は部活でサッカー・・・でした。「友達とサッカーをやりたい」という心を大切に考えたかったからでした。その後、彼はきっぱりと監督さんに自分の意志で決定したことを伝えてきたそうです。とても言いにくかったけど、勇気をもって言えたそうです。そう、報告してくれた彼の顔は以前の顔とは明らかに違っていました。担任の先生も私に、「この頃の彼は、うそのように変わりました」と言っていました。彼が私にくれた手紙には、「校長先生へ、ぼくは、校長室掃除になって、校長先生にいろいろな相談にの

ってもらい、うれしかったです。ありがとうございました。サッカー関係のお話や、前の学校のお話など、とてもおもしろかったです。校長先生が今年で退職になってしまうことは、とてもさみしいです。でもぼくは校長先生のことが大好きなので、絶対に忘れません。校長先生のアドバイスを胸に中学へ行っても頑張ります。ありがとうございました。S.T より」と書かれていました。

写真は校長室の「ロッカー」です。S.T 君により、いつもこのように使った後の清掃用具がきちんと整理され片づけられています。ところで、この「ロッカー」高級そうに見えませんか？彼が清掃に来るようになってから、私の洋服を

かけるハンガーロッカーがこのように「清掃用具のロッカー」に変わってしまいました。私が服を外にかけていたせいで、出張が多かったせいなのかもしれません。この整頓された清掃用具を見て、私は卒業するまで彼に、このことは言いませんでした。そんなことはどうだっていい、と思ったのです。



第23回全国自問教育の会の報告

研究テーマ

『自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒の育成』

第23回の全国自問教育の会は、長野県下伊那郡松川町立松川中学校で開催されました。松川町立松川中学校は平成11年2月15日より自問清掃を導入し、自問清掃の実践により学校目標の具現化を目指してきている学校です。当時、自問清掃を導入された鎌倉正之先生を講師として招き、平成27年度の研究を進めている成果を発表していただきました。

本年度、松川中学校で大事にしていることは、主体的な生徒の取り組みや成長を願い、職員研修、自問ノートの定期的な記入、自問便りの発行、清掃時の「座り」についての位置づけの明確化等の活動です。(学習指導案より)

当日は、清掃参観後、全学級道徳の時間の授業が行われました。全学級公開ということで、全校挙げて自問清掃に取り組んでいることを感じることができました。

【本年度松川中学校の研究の主な足跡】

4月10日(木)

・職員研修「自問教育」

講師：鎌倉正之先生

4月15日(火)

・自問集会、自問清掃開始

5月14日(水)

・自問ノート記入を開始

・自問便りの発行

(自問ノートの内容や、3つの心に照らし合わせたエピソードなどを掲載)

7月14日(月)～18日(金)

・縦割り自問清掃実施(18日は分担なし)

10月22日(水)

・職員会議にて

「自問清掃」についてのフリートーク

【1日目】

- 清掃参観
- 授業参観（全学級公開）
 - 1 学年 「自問清掃について」
 - 2 学年 「後輩達へのメッセージ」
 - 3 学年 「Aさんの戸惑い」
- 開会行事
開会の挨拶 小林 慎一 会長
会場校挨拶 宮島 好文 校長先生
- 授業研究会（学年別）
まとめ ご指導 鎌倉 正之 理事
- 実践交流会 I
司会：平田 治 理事
- 情報交換会 会場 まつかわ清流苑

【2日目】

- 講演会
演題「教職に生きて50年
一邂逅（出会い）と自己変革」
元栃木県河内町教育長 五月女 勝正 先生
- 実践交流会 II
司会：齋藤 辰幸 先生
- 昼食
- 実践交流会 III
司会：齋藤 辰幸 先生
- 閉会行事
閉会の挨拶 小林 慎一 会長

演題



『教職に生きて50年 ——邂逅(出会い)と自己変革』

講師 元栃木県河内町教育長 五月女 勝正 先生

教育実践・学校経営の土台としての自問教育

蒔かぬ種は生えぬ

自主的な研修会参加に敬意と感謝

邂逅に感謝

出会いで人が変わるとすれば、その人の中にそれを実現させるだけの長い間の蓄積があったに違いない。自問教育（竹内先生，原，鈴木，持田，鎌倉，平田，の各先生，他）との出会いがまさにそれであり，私を成長させてくれた。

現在の私

1935年（昭和10年）生まれ。太平洋戦争：昭和16・12・8～昭和20・8・15が人間形成に大きく影響。

退職後には「教養」と「教育」が必要（新聞のコラム）…今日用があり，今日行くところがあ

る，を心がける。

妻の病気…炊事，洗濯，洗濯物干し，取り込み，たたみ，トイレ・風呂掃除，ゴミ出し，買い物，病院付き添い

18年間毎朝…近所の JR 踏切での立哨指導，挨拶，声かけ

地元，教育界への恩返し…まちづくり協議会，栃木県地球温暖化防止推進委員，シティガイド（地元歴史文化），温暖化防止，自問教育で学校へ出前講座，道徳研修会指導・助言，学校への教育資料の配布等

人は歴史を背負って生きている

（子供も，親も，教師も）

小学校(国民学校)…疎開（小3より弟と一緒に両親と別れて農家へ），転校，敗戦，貧乏，食

糧難、ひもじさ、仕事（農作業）をしないとご飯がもらえない。孤独、いじめ、戦時中、弁当にお米がなく、麦、コーリヤン、ジャガイモの弁当、敗戦後の混乱、傷痕軍人の姿、闇や

物のない時代：（小6年生）手作りの通知票⇨女性で若い担任の言葉「正しく、強く、明るい人になれ」一心の支え。心ある人の支え、親子の絆の大切さ、子供のために生きる両親の姿

中学校…両親の懸命に生きる姿。校舎もない一校舎建設の手伝い、英語の先生がいない（高校入試に英語なし）。貧乏で学用品、本が買えない、進学 or 学習機が買えず、木のミカン箱を利用、高校、大学へ。担任の親身で、認め、励ます熱心な指導、教材の作成⇨こういう先生になりたい。高校生：奨学金の援助（5人弟妹の長男）、あげアンパンが食べたい！英語で苦勞：毎時間のディクテーションテストは毎時間、零点。工場アルバイトをして英語塾で基礎から学習。英語の辞書を初めて購入。得意な教科は、日本史と物理。できないのには理由がある⇨できない子の気持ち：励ましと配慮が必要。

大学生：地元宇都宮大学学芸学部（英語科）：4年間奨学金と英語塾講師（親からの学費なし）。本、腕時計、カメラ、テープレコーダーが買えない。バイブルクラスで勉強。塾の英語教師と会話。教え方の研究。教え方が下手だと、生徒はこない。これは厳しい。学校では「生徒が来るのは当たり前」、「来てくれて感謝」と心から思っているか？「児童、生徒があつて学校がある。」を！

初任の頃（昭和34年4月、農村の中学校に英語教師として着任）

教育長の言葉：「進みつつある人のみ教える権利

あり」一常に念頭に。

テーマ「英語嫌い⇨英語が好きに」に挑戦、教材開発・工夫、農協の有線放送を英会話に活用。

1～3年各3クラス、英語専門は一人、英語25時間、他3。

当時の保護者の学歴：先生を尊敬⇨それに応えねばと必死。

未熟な新米教師：子どもと一緒に、情熱、先輩から学ぶ、子どもに申し訳ない。進学者152名中62名。放課後・夜、希望者に勉強を教える。就職者への見守り。

月給9800円。学校に行商（中古のスーツ）が来る。宿直（頼まれ20日も）。3年後に市中心部の学校に転勤⇨各自治会に奉加帳。住民からの餞別に恐縮。

中学校勤務時代のエピソード

当時英語教師でも英語を話せる人は少なかった。指導法も、「文法中心で、読んで訳して方式」がほとんど。夏休み中に ELEC 主催の2週間の宿泊研修に自費で参加、「指導法と聞く力・話す力」を磨く。

夢：アメリカに行き、本物の英語を教えたい⇨7年後、34歳時に実現。国際青年交流委員会「高校生英語研修43日間（1969年7月20日～8月31日）の引率者に応募、全国からの高校1・2年生男女9名をカナダアメリカ、サマースクール2週間、ホームステイ1ヶ月（カンザス州、一人一家庭）の研修。アメリカ国内はバス移動。添乗員なし。通訳、折衝は引率者。1ドル360円、アポロ11号の帰還の様子をホームステイ先の居間で見た。グランドキャニオン、ハワイ。

クラス経営：全員が存在価値を見出せる、活躍の場のある学級。生徒との心の交流：自発性、自律性、を信じ、自己教育力を育てる。いじめ対応のために自己教育力、心理学、生徒指導、道徳教育に力。学級通信、学級新聞、合唱、清掃、

(日曜日に自主参加のアーケイド清掃), 生徒と遊ぶ, とともに喜ぶ。ともかく話を聞く。子ども理解プラス解釈。日記指導 (生徒との交流: 苦情, 悩み, 提案一必ず応える, 日記帳の贈呈。) 私の結婚式 (12月24日) に生徒が合唱, 感激。卒業後のクラス会, 同窓会, 結婚式に招かれる⇒贈り物に生徒の作品を。

生徒とのつながり: 押してもダメなら引いてみな, 美点凝視, 欠点をカバー

全校朝会での名札検査, 汚れてくさい上履き

Y シャツで作ったヨットの帆 (担任へのクリスマスの贈り物)

破かれた賞状, 遅刻の王者 認めて褒めて励まして

研修: 宇都宮大学「田島英語研究室」に内地留学 (半年間)「楽しい英語学習」

本を買う: 英語関係のほか, 全集, 百科事典など

一学生時代の渴望 (want)

宇都宮市教育委員会勤務時代 (指導主事, 管理主事, 係長, 課長)

人の意見, 苦情, 相談を傾聴: 「それから, それから」と。最長は4時間。

教育の近代化, 教育改革に向けて: パソコン, EAT の導入, 事故対応 (裁判)

管理職者との対応: 通信教育「管理監督者講習」受講 (6ヶ月)

文部省海外長期研修 (東ドイツ, パリ, ロンドン, USA ウーンソケット, ニューヨーク)

団長の原秀幸先生との出会い

飛行機の中, ホテルのロビーで, 自問教育について情熱を込めて語る原先生の話に鈴木秀三郎先生と傾聴。共感するところ多く, さらに探求したい意欲に駆られる。

小学校校長時代

共に歩む学校「児童とともに, 職員とともに,

保護者とともに。」

校長風をふかさない。職員, 児童, 保護者の意見を聴く。話すことは文字に起こす。

荒れた学校 (児童数820名) に新米校長 (51) として着任。

いかに取り組んだか? ビジョン, パッション, アクション, 自問教育の導入。

道徳の充実: 朝会 (礼) は校長の道徳授業一全力で準備, 工夫。子どもの感想とその返事, 活用。話題の共有化。P-D-S の実施⇒P” -D” -S”

職員, 子どもとの心の交流。⇒存在感, 認められたい, 役立ちたい

職員: 起案, 週案による励まし, 1日1回の声かけ, 誕生日には職員打ち合わせ時に, バラ1輪とメッセージを贈呈, 特に養護, 事務, 調理員への目配り。

子ども: 毎朝昇降口で出迎え, 挨拶, じゃんけん, 一心の中に生きる校長。定年時に小学校5年生の子どもたちの同窓会に昨年招かれた。感激! 教師冥利。

「学校経営覚え書」の作成, 「学校だより」, 「保護者による学校評価の実施」

市の中心校東小へ: 歴史と伝統がある学校だが, 眠れる獅子。学年意識, マイクラス主義。指示命令による指導, 子どもに自主性, 思いやりの心の育成が課題。

東小からの発信。(5年勤務) 自問教育 (清掃), 国際理解教育で外国人や全国から参観者多数。平成8年2月9日公開自主研究発表会の実施。テーマ「新しい学力観に立った自らに問う子どもを育てる学校の創造」一自問清掃で培った心を生かした授業の展開一。県・市の指定でないので補助金なし: 資金集めに論文, 実践記録応募, PTA 会長発案でバサー, テレカ・未使用切手等回収。職員の気働きに感動。

河内町教育長時代（人口3万5千，小学校6，
中学校3）3期9，6年（市に合併）

ともに歩み，開かれた，信頼される教育委員会
⇨『脱「上意下達」，壁を低く。

学校，教職員を守る一保護者，町長部局，議会，
自治会：足で稼ぐ教育長

「ならではの仕事，らしさの発揮，地元に住む
利点一学校を守る。正月の巡回。

教育長自身による教育長便り「和顔愛語」の月
1回の発行，出前講座（全校へ）

小学1年への支援員加配，中学2年20名を海
外派遣，ALT 2名の配置。

「志は高く，頭は低く」平成7年文部大臣表彰，
平成20年叙勲瑞宝双光章

今後の課題：地球温暖化。人類的課題の深刻化。
学校教育の中心的課題に。

実践交流会

今大会でも各地より実践レポートを持ちよっていただき，充実した2日間を過ごすことができました。

実践発表Ⅰ

愛媛県西条市立飯岡小学校

小野 基美 先生

『教師の自問』

木村留里子校長のもと，自問清掃に取り組む
飯岡小の記録。

校長先生をはじめとして，各学級の通信，そし
て，いいおか自問だより… 先生方の熱い思い
をお便りの言葉に載せて届け続けている実践の
記録を紹介いただいた。

飯岡小学校だより

心を磨く ～校長 木村留里子～

○「やらされる清掃」から「自ら考え，進んで
する清掃」へ転換を図ろうとしている6年生

○「大人の私が，これでいいのか？」と心を揺
さぶられる。

○担任も綴る自問ノートの紹介

ありがとうの力 ～校長 木村留里子～

○五日市剛さんの「ツキを呼ぶ魔法の言葉」

何度も言っているありがとうの言葉が本当の
ありがとうの心を連れてくる。

○自問清掃の精神も根本は一緒なのではないか。

（1）磨いています ～校長 木村留里子～

○2学期に入り，廊下や階段を磨くことにした。

○がんばっている子どもの姿に頭を下げたくな

りました。

実践発表Ⅱ

長野県茅野市立長峰中学校

小椋 純也 先生

担任としての思い

「中学校の担任になったら，学級経営の柱の1
つに清掃をもってこよう」と人一倍清掃（無言清
掃）に力を入れてきた。

丸山博先生との出会い

そして，自問清掃へと導かれる。

「校舎をきれいにする目的の掃除」から「心を
成長させる掃除」という活動の凄まじさ，自分
の至らなさを実感する。

長峰中では

まずは無言清掃から～最初の半年間～

「心の成長」の自問清掃に力んだ8カ月

自問清掃と無言清掃の狭間で

丸山先生の学級にはまだまだ及ばないが，現在
の取り組みは間違っているとは思えない。

実践発表Ⅲ

佐賀県多久市立中央中学校 鳥谷 功治 先生

佐賀県多久市立中央小学校 中野周一郎 先生

『本校における自問清掃の成果と課題』

○学校の実態

小中一貫校として開校2年目

9年間の連続性を意識した教育実践の推進による教育効果への期待

○生徒の実態

- ・自分の将来に夢や目標を持っていない生徒が多い。
- ・いじめ、不登校、学級崩壊傾向、学力不振などの厳しい状況がある。

→自問清掃の必要性

自問清掃とは…

皆さん一人ひとりが持っている「自主性」を高め、裏表なく正直に生きていくような大人になってもらうための「掃除」の時間。

○5つの玉磨き

○自問清掃の約束事

○脳と心と玉と自問ノート

自問清掃を実践してみたの課題

- ・見つけ掃除以上にするにはどうするのか。
- ・ノートに記入する内容もあまり変化はない。
- ・自問ノートの確認とコメント書きに労力と時間がかかり、続けることが困難である。

実践発表Ⅳ

岡山県岡山市立妹尾中学校

青木 伸晃 先生

『岡山市立妹尾中学校「心磨き清掃」の実施状況』

- ①自問清掃について全教職員に伝える。
- ②自問清掃の研究を深める。
- ③取り組み初めの型作り（妹尾中学校版アレンジ）
- ④実践
- ⑤問題点・改善点を検討（3カ年計画）
 - ・H26（1年目）…取り組み初めの型作り
 - ・H27（2年目）…軌道に乗せ、活動の中核に
 - ・H28（3年目）…伝統的な活動へ

○心磨き清掃5つの約束

1. 迷惑になるおしゃべりをがまんして、時間いっぱい一生懸命掃除を行う。
2. どうしてもしゃべりなくなったり、遊びなくなったりした時は、掃除の邪魔にならない場所に座って、自問する（座ってがまんしている間は掃除をしなくてもよい。なぜなら学校がきれいになることよりも、自分に問いかけながら、人間として成長することの方がより大切だから）。そして掃除ができる気持ちになったら、再び掃除に取り組む。休んでいる人は、自分の心を立て直すために、自分に問いかけを続けているので、周囲の人は、その人を責めず、広い心で受け止める。
3. 互いに、口に出して相談ができない不自由さをカバーするために、周りの人の気持ちや困っている様子を察し、気配りをしながら行動する。
4. 早く掃除が終わった場合でも、他に美しくできる所がないか見つけながら、時間いっぱい掃除をする。
5. 掃除が終わったら教室に戻る。週の最終日に心磨きカードを書く。自分を振り返り、3つの心（「我慢の心」「気づきの心」「思いやりの心」）が磨けたかどうかを自分に問いかけたり、友達の価値ある行為に対する共感などを中心に、思ったことをありのまま素直な気持ちで書く。

意見発表Ⅰ

埼玉県 鈴木 秀三郎 理事

『人間が生まれ変わる自問清掃』

「生徒が清掃を自分からはじめました」

「生徒が生まれ変わりました」

生まれ変わった原因は、

「原因」と「結果」の法則

- ・なぜ自問清掃をやるといじめがなくなるか

ステップ1

自分の仏性（心）を開く導入

指示命令をやめる

ステップ2

他の人への迷惑に気づく

他の人に迷惑な私語を慎むようになる

ステップ3

迷惑を受けている人の気持ちがわかるように

なる

孤独に耐え自分を見つめる

清掃活動に集中できるようになる

清掃中の友達の活動が、今までと違うことに
気づく

次々に見つけ出していく変化に、人間のすば
らしさに気づく

ステップ4

自分の心に聞き、正直な心で行動できる

清掃が楽しくなる

感謝の心で清掃できる

実践発表Ⅴ

長野県立科町立立科小学校

北村 和行 先生

『自問ノートから振り返る

自問清掃における児童の育ち』

Y児の自問ノートを中心に、自身の自問清掃への取り組みを振り返ってみた。そこから見えてきたものは、「自問清掃の奥深さ」、そしてその清掃に取り組んでいる「子どもの奥深さ」である。卒業を控えたS児が、こんなことを自問ノートに記していた。「ほうきが1人しかやっていなかったの、私もやりました。そこで考えてみました。今日の自分は心構えがしっかりできている。ということは、目標がしっかり考えられる。ということは成果と課題が見えてくる。ということは・・・と、どんどん続いていける。自問清掃には終わりが無いのだと思いました。」自問清掃には、まだまだ知らないことが隠されている。これからもその奥深さを、子どもたちと一緒に追究していきたい。

実践発表Ⅵ

長野県北相木村立北相木小学校

新津 由紀 先生

『教師の構えで子どもは変わる

～全校で取り組む自問清掃 6年目の様子と課題～』

○今年度の取り組みの様子

・小林愼一先生をお招きしての職員研修

・1・2年生はがまん玉を意識した清掃

・3～6年生は黙想からスタートする自問清掃

・毎週水曜日は「自問集会の日」

○2・5年生の事例とそこから見えてきたこと

・自問教育のねらいは、「子どもに対する教師の見方を振り返る」こと。私たち教師が、子どもの成長をどう捉えているかを自己に問い返すことが一番のねらいだとわかった。

・教師の構えで子どもは変わる。教師が何の見返りも期待せずに自らの心と向かい合って掃除する時初めて、子どもに自発性を養う第一歩が始まるのではないかと。

意見発表Ⅱ

長野県 平田 治 理事

『「自問清掃」創案者竹内先生の発想原理』

平田の手許に、生前竹内先生から直接コピーさせていただいた講演用メモが残されていた。「自問活動(清掃)のわかりにくさ」と題されたA4版1枚のメモには、「教師として」5項目、「児童生徒に」11項目示された後、「もともとなった考え」(原理)として5項目が明記されていた。この講演用メモは私文書ではあるが、竹内先生が「自問清掃」をどのように構想されたかを解明する上でたいへん資料的価値が高いものと思われる。

平田はこのメモを手がかりに、「もともとなった考え」(原理)として記載された5項目について逐一検討を加え、「自問清掃」の発想原理と方法的原則を明らかにした。尚、以下の発表内容は、

信州大学教育学部研究論集第6号(2013)に掲載された学術論文『学校掃除「自問清掃」の発想原理と方法的原則』の抄録である。

学校掃除「自問清掃」の考案者竹内隆夫先生は、美術科指導方法「条件型学習」の方法的原則を適用し、段階的に展開させる実践プランとして「自問清掃」を構築した。すなわち、道徳における行為的实践による学びの重視(「禅の思想」)と子どもに全幅の信頼をかけ(信じて待つ)(「ペスタロッチの思想」)ことは、プラン全体の基底となる原理として働いた。この基底の上に、プランの最終目標である〈正直〉(「井島美学」)に至るための前提条件として〈感謝〉(「禅の思想」)を配置し、自らを(に)問う〈自問〉活動を子どもに求めた。これが第4段階〈感謝〉と第5段階の〈正直〉である。この最終目標に到達するためには、まずは能動的な掃除活動を充実させる必要がある。そのため第1・2・3段階を設け、各段階の目標には〈意志力〉〈情操〉〈創造力〉(「時実脳生理学」)をそれぞれ位置づけた。こうして〈意志力〉〈情操〉〈創造力〉〈感謝〉〈正直〉と展開する段階的構造のプランが構築されたのである。これらの活動は

連載第4回

実践の中で

自らを高める自問教育



竹内隆夫先生

の手引き

新たな発想による清掃活動

一人としての成長を願って

竹内 隆夫 著

<目次>

すいせんの言葉(第4号掲載)

1. 実践の場こそ(第4号掲載)
2. 紆余曲折を経て(第5号掲載)
3. 自由とは迷惑をかけないこと“人の痛みがわかる”(第6号掲載)
4. 心を汲む気働き“人の心がくめる”(第7号掲載)
5. 創造と発見“人のねうちがわかる”
6. 感謝の心で増分との違いか許せる”
7. 正直ということ“胸に自分なりの尺度ができる”
8. 教師のあり方
9. 理念の背景

あとがき

4 心を汲む気働き

最近英国から帰った友人がその第一印象として、

「わが国の青少年のモラルが西欧に比べてあまりにも低く、このままでは日本は危ないです」と言いました。

先生方も生徒を旅行や見学に引率された際、車内のマナーの悪さに手を焼く例が多いようです。混雑する車内で、若者が席をゆずろうともしないで2人分も占有していたり、老人が立たされたりしています。またおとなが読書をしているのに傍らで女子高校生達が迷惑とも思わず、とんきょうな声で談笑しています。老人クラブで道路わきの溝掃除をしているのに、そこへ遊びに行く若者の車からすいがらやあきかんが投げ捨てられる始末です。外国から日本へ来ている留学生からも、日本の若者はなぜ長上を尊敬しないのかと、その傍若無人ぶりが指定されています。今、学校も家庭も、この公德心の欠如になぜ取り組めないのでしょうか。ひとつピン

トが狂っているように思うのです。

それは子供達の迷惑行為に対しては驚くほど寛大で、そうでないことに厳しいのです。身じたくや忘れ物や記名の有無などについてはきわめて熱心に管理しようとするのです。これらはさほど他人に迷惑をかけていることではなく、むしろ自損行為ですから、同上に値することだと思ふのです。

私のこのプランで、まず自分は人に迷惑をかけているのではないかと自問する場として清掃を選びました。そこで当初は自問清掃と名づけました。ところが語呂が似ていたせいか、無言清掃と読み替えられてしまいました。何でも黙らせさえすれば清掃の上手な子供になるらしい……ときわめて浅薄な解釈が流行してしまいました。

先日も教育学部の学生に講義をした後で尋ねましたら、ほとんどの学生が、中学時代の清掃時間にわけもなく無言を強いられたときいてがっかりさせられました。黙働などという言葉も流行しているようです。今も県下には生半可な理解で一斉に無言を強制している学校が多いの

です。まともに理解している学校はほとんど数校にすぎません。

教師の命令で黙らせようとするれば、1日で形は整うでしょう。このプランでは、生徒ひとりひとりが人に迷惑をかけないように心がけ、自らを律する努力を重ねることで耐性を身につけ、やがて静かに作業に集中できるようになるというものです。その間、教師も何ら指示命令をしないで待ち続けるのですから、約半年は信頼をかけ続けなければならないのです。

頭で理解できても直ちに迷惑行為が自制できるはずはありません。その上孤独に耐えて作業に集中できるまでには相当な努力がいるのです。今日はできても明日は崩れるかもしれません。じぐざぐを重ねながら次第に意志力が身についていくのです。こうして皆が崩れなくなったら、第1段階達成とみるのです。

こうして第1の段階がほぼ達成されますとまた新たな疑問が生じます。全く声を出さないように心がけると、不都合も見えてくるからです。それはひとつの作業から次の作業に移ろうとする時、判断に迷うからです。以前は班長が頃合いを見て、「そろそろ机を運びましょう」とか「次は廊下へ移ってください」などと指示をし、スムーズに進みました。が、このプランでは、それもやめようというのです。

この疑問に答える新しい根拠は何か。その説明がないと納得できないでしょう。これまでは、声を出さないことの主な理由は人に迷惑になるからということでした。第2段階の動機づけは、もうひとつの理由を示すことにあるのです。

皆さんは、テストの成績のよい勉強のできる生徒をすぐれていると見るでしょう。お母さん方も、「おたくのおこさんは優秀でいいですこと」などといわれますね。

しかし学業成績のよいことと、人間が立派なこととは必ずしも一致しないということも知っ

てほしい。どんなに成績がよく、よい大学を出ても人間としてはさほど尊敬できないという人がいます。反対に学歴はなくても人として立派なひとがたくさんいるからです。

イギリスなどではその区別がはっきりしていますから、学習成績とは別に紳士と呼びこの方が尊敬されています。だから学業だけでいても油断ができないと見るようです。なぜなら頭がよいと悪いことも考えつくかもしれないからです。

言葉より心で会話

有名な歴史学者トインビーさんは、キリスト、釈迦、孔子など世界の偉人といわれた人々について、その共通点を調べました。その結果、これらの人々は共通して人の気持ちを汲みとる気働きがある、ということでした。特に社会の底辺で働いている人達への思いやりのある人が、皆から尊敬されている一ということを見られました。

アメリカの前の大統領が、小学生から「あなたは世界一の一番強い男になろうとかがえていましたか」と質問された時、「いや反対で、弱い人の味方になろうと思っているうちに大統領にされていたのです」と答えています。私が教えた生徒の中にも、学校での成績はさほどすぐれていなかったが、今は立派な社長さんになって多くの部下から慕われている君がいます。

日本ではこの頃、社会的地位も高くなってから悪いことをして一生を台無しにしている人がよく報道されるでしょう。結局人間の大事なねうちは人間らしい気働きなのです。それには皆さんの頃から人の気持ちを汲みとるように心がけることによって養われるということです。自問活動で話をしないことにしたわけはもうひとつ、気働きの育つ時間にするという理由があったのです。

言葉で連絡しますと、人の気持ちを汲みとろうとする気働きは育たないものです。例えば私が箒でごみをあつめてちりとりがほしくなり、「よしお君、たのむ」「はいよ」と答えて持ってきてくれたとします。この場合、言葉で連絡してしまいますから、私の気持ちを汲みとることはいらなくなります。

ところが、もし私が何も言わないのに、よしお君がちりとりを持ってきてくれたとしたらどうでしょう。よしお君はその前に私の気持ちを汲みとって動いたのです。

机の端に手をかけた時、これを見た友達が黙って持ちに来てくれた場合も、友達の気働きが働いたのです。2人が同時に同じ箒を取ろうとした時、一人が黙ってどうぞと相手にゆずった時も、相手の気持ちを汲みとったのです。このように口を使わないから、目で人の気持ちが見えてきて美しい心が通い合うのです。

このようにクラスの皆さんが、次第に人の気持ちが汲みとれてくると、相手も気持ちよくなって仲の良いクラスに高まるでしょう。

つまり声でやりとりをしない動作だから美しいのです。そういう意味で連絡したいこともあるでしょうが、なるべく心をよみとりながらはたらいてみようではありませんか。このような高尚な心の働きのことを情操と言って、前にお話ししたように人間だけが備えているすぐれた才能なのです。

第1段階ではがまんとやる気という意志力を目標にしましたが、これからは、どれほど人の心が汲みとれて働けるか—それを目標にして取りかかることにしましょう、と説明しました。

声を出さないで働く新しい意味が理解されたことによって皆の動きは一段と活発になりました。頭ではわかりましたが、それができるかどうか勝負どころです。やがてあちこちに協力しあったり、ゆずり合ったりする美しい姿が現

れてきました。こうなると作業も目に見えてはかどるようになり、さらに時間が短縮されることになりました。

実は私がこの学校に着任した時は、清掃時間を20分としてありました。それでも時間はたりなかったそうです。ところがこの段階になると、どこでも時間が5分以上余ってしまうというのです。そこで朝と放課後の清掃を5分ずつ短縮してみました。日課が10分も縮まったので、電車通学の生徒は前の電車で帰れることになったのです。過程の学習が1時間近く浮いたのです。皆の心遣いが変わったために、こんな成果が得られたのです。生徒の作文にこの感動が現れたのは申すまでもありません。

「皆が心を一つにして働けばこんなに早く仕事が進むのか。何と素晴らしい方法なんだろう」

「この清掃で私は協力ということの本当の意味がわかりました」「これをやりだしてからは、組中の人の考えが変わりました。怒る人もなくなり落ち着いてきました。これをやればどんな学校でも不良なんてひとりも出なくなると思います」「この1年で明らかに友達の悩みがくみとれるようになりましてし、人を思いやる心に成長したことがはっきりわかります。僕にとって、中学校生活の中の最大の収穫でした」

こうして、にわかには友情が育っていきました。そしてこの気働きは友達だけにとどまらず、やがて来客や先生方との接し方の中にも及んでいきました。私は清掃中生徒と共に壁のよごれなどをふきとることを楽しみにして働いていました。

校長室の廊下から見える距離に玄関があります。来客があると働いている生徒からよく見えるのです。来客に気づくと、生徒はすぐに玄関へ走り、スリッパを揃えるのです。その来客が私への用件だとわかると、生徒は私に近づき、黙って私の手から雑巾を受け取るのです。「私が

もみ出して始末します」という意味なのです。私が軽く礼をして手を洗っていると私の上着を持ってきてくれるのです。「どうぞお客さんのお相手を」という意味です。その後、私がお客さんのお相手をしていても生徒達は静かに作業を続けますから会話の邪魔にはなりません。

学校行事の前日、一通りの準備を終えて先生方と休んでいると、生徒達が職員室へ「まだお手伝いすることがありますか」ときてくれるのでした。電車通学の生徒達がおとなに席をゆずったり、マナーがよくなったとの知らせも届きました。過程からは急によく手伝ってくれる子

供に変わりました一との報告もありました。

担任からは、学業のすぐれた生徒が高慢でなくなったとか、不振な生徒も悪びれずに質問するようになったのなどの知らせもはいました。小学校からの遅れを抱えていた生徒のために友情の朝学が始まり、その子を県立高校へ進学させたクラスも生まれました。(著書で紹介)

もちろん、仲間外れやいじめ、不登校などが起こるはずありません。こうして非行とは無縁な学校が生まれたのでした。

(次号へ続く)

自問教育ネットワーク・全国の動向

平田治(自問教育の会理事)

昨秋松川中学校で開催された全国自問教育の会の後、いくつもの研修会で講演などをさせていただいたり、実践されている方々と交流させていただいたりする機会がありました。そうした中から、全国の動向の一端をお伝えします。

この2月には各地の学校へ出かけました。岡山県津山市久米中学校、佐賀県多久市多久中央校、同県小城市岩松小学校、福岡県みやま市大江小学校、三重県伊賀上野市緑ヶ丘中学校、東大阪市縄手南小学校等々。また、佐賀県みやき町三根西小学校区の小中学校の先生方、福岡県久留米市周辺の先生方との交歓会にも参加しました。更に岡山県誕生寺小学校でも実戦が始まりました。自問清掃を通して、真の教育のあり方を探究していこうとしている学校と教師達がそこにいました。

東大阪市民会館を会場にすでに10回ほど開催されてきた「自問清掃教育研究会in大坂」へは、東京・千葉・長野・愛知・奈良・大坂・岡山・愛媛・福岡など、かなりの遠方からの参加者もいます。地理的に集まりやすい場所であることも幸いしているのだよ

う。会場となっている市民会館は来年度に取り壊される予定と聞いていますが、今後も大阪辺りを会場にこうした会が継続されていくことを強く希望します。2月22日の会では、長野県から片岡聡矢さん(この会報の作成責任者)が参加され、60分間にわたって実践報告をしてくれました。全国の会ではどうしてもかぎられた時間内での報告となってしまうがちですが、各地で開かれるこのような会で、可能なかぎりたっぷりと語ってくれる報告は、報告者自身にとっても参加者にとっても有益なものであることは言うまでもありません。東京や愛媛や福岡から参加された方々も、大きな刺激やヒントを持ち帰ることができたと思います。片岡さんの他にも、愛媛・大阪からの報告を聞くことができました。

名古屋圏では、3月下旬に自問清掃について語り合う会が予定されているようです。東京でも勉強会を立ち上げたいという声がありますし、実践校を視察し4月から取り組もうとしている学校もあるようです。

また先日九州で話したある校長が、「全国各地の

責任者が集うような会が必要ではないでしょうか」とおっしゃっていました。今後、大阪辺りで各地(佐賀・福岡・中国・大阪・石川・愛知・長野など)の実践者・推進者が情報交換するような会ができればと考えています。

ところでこの他の動向として、ふたつ紹介します。ひとつは、全国自問教育の会でも講演された石川県の橋口有康さん(元光野中学校長)から寄せられた作文。もうひとつは、大阪の岡本美穂さん(東大阪市縄手南小学校教諭)の文章で、雑誌(山下幸編『THE 清掃指導』明治図書 2015)に掲載されたものです。

橋口さんは、「1月11日(日)に光野中学校で1年間自問清掃に取り組んだ生徒の成人式が行われました。その時に書いてもらったレポートをお送りします」と書かれ、4人の作文を送ってくれました。

3人は大学生です。ひとりには中学校当時を振り返って、こんなふうに書いています。

自問清掃は、僕の人格形成に大きな影響を与えてくれました。決して大袈裟に言っているのではありません。(中略)最初、自問清掃に取り組み始めたばかりのころは、掃除が強制でないことを幸運と捉え嬉々としてサボりました。ただ、それがいくらか時が経つと、ふと周りに目がいききました。そこには黙々と掃除する先生と一部の生徒がいました。それでも、ああ偉いね、としか初めは思いませんでしたが、さらに時が経つと、だんだんと何もしていない自分が馬鹿らしくなってきました。我が身のことながらとても不思議なことだったので、印象に残っています。そして、ルールに反しようとする気持ちは、ただ自らの存在の誇示、他人からの注目、承認への欲求の、やや歪曲して具現化したものなのだと、ある種客観的な視点からみえるようになっていました。そう分かった途端、とても自分が幼く感じられ、恥ずかしさとこれまでの行いへの贖罪を

原動力に、気づくと掃除をしていました。

この人が書いている内容は、自問清掃の核心である〈信じて待つ〉ことが、いかに教育的に意味のあることかを物語っていると思います。

他のふたりの学生は次のように書いて、現在大学で学んでいる自分と自問清掃による学びとを連関させているようです。

1年目、2年目、3年目と行う中で、自問清掃以外の生活が自問清掃を行ったことによって変化していくのが実感できました。自分のことについて、自分の一日の行動を振り返ったりするようになり、「今日これができるから明日はもっとこうしよう」と考えるようになりました。これは、中学校を卒業して5年経った今でも変わりません。この行為をすることによって、自分の気持ちや心がとても落ち着き、また明日も頑張ろうという気持ちになることができます。

私は自問清掃で毎日同じところを掃除しては面白みがないため、たまに汚れや埃が溜まっていそうな場所を新たに探し出したりしていました。そういった探究心のおかげで何事も突き詰めていく力がつきました。このようにして、自問清掃に取り組んでいるときは気づきませんが後から考えるととても自分のためになっていると感じました。

社会人となったもうひとりの書いた文章には、〈感謝〉という語を使いながら個人や時間を越えたところの世界観のようなものが語られているように思えます。

私は高校卒業後に就職し、一社会人として生活を送っています。そこで私は自問清掃を通して、人の気持ちを考えるということが身についたと思います。自問清掃ではしゃべることなく黙々と掃除をするわけですが、「あの人はここを掃除していたので違う所を綺

麗にしたほうがいいな」など自分で考えて行動します。社会に出ると自分で考え行動することが当たり前になり、一番重要な部分になってきます。自問清掃を経験した私は、中学校時代の恩師に久々に再会。先生がその当時、部活動で頑張っていた私の進路を共に真剣に考えてくれたおかげで今の自分がいる。成人式の際には、数時間の成功の為に何十日もかけて準備して下さる運営の方々がいる。その人にとっては仕事であり、当たり前のことかもしれませんが、その思いに感謝できる自分に成長しているなと思います。中学校時代の自分はなぜ自問なんて？と思いました。自問清掃は日々の清掃を通して自分が成長できる場になっていたのだなと振り返ります。これからもその経験を生かして頑張っていきます。

さて、次に紹介する岡本さんの文章の題名は、「子どもが変わるという事実に教師も変わる」、副題は「～「教師としてのあり方・考え方」を掃除から学ぶ～」です。何と魅力的な題名でしょう。この著書は、全部で16名の人達が執筆しているのですが、この題名を見ただけで、彼女が他の執筆者とは一線を画しているらしいことが推し量られるというものです。確かに内容的にも異質です。顕著な違いは、彼女の文章には子どもの作文が紹介されていること。つまり、子どもの内面的な成長が顕れた事実を提示している点にあります。他の執筆者には、自分が実践している掃除方法と掃除観は示されていますが、子どもの事実(その方法で子どもがどのように成長したのか)は示されていないのです。執筆者達は皆、編者に選定された評価の高い実践者なのでしょうが。別言すればここに証明されているのは、掃除活動と自問ノートや道徳授業による自己省察を絶えず往還させる自問清掃の特質ではないでしょうか。

岡本さんが示した一つ目の子どもの作文は、「(前略)だから先生もなかなかほめないでください。でも無意識でできていたら教えて下さい」というものでした。二つ目の作文は、「私は初めて掃除を休みました。(中

略)休むというのは、1つの成長の仕方なのか？とも考えたりたくさんいつも考えないことを考えました。(4年生)」というものでした。そして、文章の結びは「このような姿に出会うことができる教師というのは、本当に素晴らしい仕事だと思います」と括弧しています。

こうした岡本さんの文章を、編者である山下幸氏はいったいどのように読んだのでしょうか。内容が異質です。氏は、「まえがき」で「清掃指導の大切さを頭では理解しつつも、子どもたちを上手に動かすことができないと悩んでいる教師は少なくない」と述べています。自問清掃実践者からすると、この「子どもたちを上手に動かす」という表現にまず違和感を覚えるでしょう。「上手に」もひっかかりますし「動かす」もひっかかる。自問清掃では、現象として子どもたちが上手に動くことよりも、内面的な育ちに着目しようとするから。山下氏は著書の趣旨を、指導の「こだわりの理由や指導のコツを執筆していただいた」と記しています。しかし岡本さんは、指導のコツなどちっとも書いていないのです。山下氏は、人選を誤ったということでしょうか。山下氏にとっては仮に誤った人選であったとしても、わたしたちからすればむしろ掲載してくれたことを感謝しなくてはならないでしょう。

他の執筆者は15名ですが、題名だけを見るとなかなか魅力的です。たとえば、「清掃指導で何を育てるか」「心を磨き、心を鍛える～子どもの自主性・自立性を育てる清掃指導～」「心を磨く清掃指導」「生徒同士で心を磨き合う清掃活動」などと、自問教育の会でもしばしば聞かれるフレーズが出てきます。だからこそ、私たちは気をつけなくてはならないでしょう。自問清掃は、似て非なるものであってはならないからです。

似たフレーズを峻別する眼力を持ちたい。そして、「心を磨く」とは、一般に語られる場合と自問清掃とは、いったいどう同じでどう異なるのか。それを、きちんと相手にわかる言葉で説明できる説得力を持たなくてはならない。説得とは相手に通じる言葉で語ることであり、相手が理解できる共通言語を探し当てることでもあ

る。己が信じる自問清掃の核心を、熱っぽく語ることでだけでは通じないと思います。

ところで、大坂での研究会の次の日、私はかねてからの念願だった岡本学級訪問を果たすことができました。

道徳の授業参観と自問清掃見学、それに1時間国語の授業をさせてもらいました。こちらがたじろぐほどの力動感溢れる子ども達の姿がそこにありました。掃除



の時間には、ロッカーの上に何気なく脱ぎ捨てておいた私のコートを丁寧にたたんでくれた男の子がおり、

恐縮しました。使いかけのチョークを長さ順に並べたり、本を種類別に並べ替えたり、校庭用の靴の裏側まで拭きあげたり、窓枠の隅を指に巻き付けたぞうきんの先で拭いたり、多種多様な個性的な活動が展開されていました。

岡本さんの文章の背景には、こういう子どもの具体的な事実があるわけです。こうした事実を思い浮かべながら、さきほどの文章を読むと、より説得的です。しかし、同じ事実を見たとしても、「この子ども達は、掃除が上手だなあ」という感想で終わってしまう場合もあるでしょう。誰でも「子どもを見れば一目瞭然」とはいかないのです。つまり、自問清掃では、単に掃除が上手にできることをねらっているのではない、そういうことをきちんと解説する必要がある。したがって、説得力には解説力が伴う必要もあると思います。

事務局便(い)

**自問教育の会 事務局長
丸山 博 (塩尻市立塩尻中学校)**

「それ、僕じゃないです！」

それぞれの学校にはそれぞれの教育的課題が山積しているだろうと思うのですが、塩中もご多分に漏れず教育的課題で溢れかえっています。その課題を一つ一つ乗り越えていくのが、私たちの職責であり生き甲斐でもあります。

塩中の課題の一つとして「ゴミが落ちていても拾う生徒はほとんど皆無」ということです。誰もがきれいなところで生活したいと思っているのに・・・です。多くの生徒たちは、どんなにゴミが落ちていても見て見ぬふりです。ですから、お昼近くにもなると、教室の床はかなりゴミだらけ・・・。見るに見かねてゴミの近くにいる生徒に「足下のゴミを拾おうよ。」と声をかけると「それ、僕じゃないです！」「私が落と

したんじゃないです！」と返答が返ってきます。そんなこんなで誰も拾おうとしないので、私が拾います。そうすると「先生、偉いね！」と上から目線で褒めてくれます。

こういう実態に直面すると、たぶん先生方は「何とかしなければ・・・」と思うことでしょう。「拾え！」と強制的に拾わせることは簡単なことです。しかし、それは教育ではありません。でも、実際にどうしたら良いのか・・・ほとんどの先生方が途方に暮れるばかりというのが実情ではないでしょうか。でも、かつて下條小学校でM先生と自問清掃に出会った学年主任、かつて女鳥羽中学校で行われた自問教育の会に参加した副主任、初任地が下伊那松川中学校だった職員と私がいたのです。さらに、塩中には「学年スペース」という150名の学年生徒が集って集会できるスペースが各階に用意されています。とはいえ、何もできないまま日々がどんどん過ぎていきました。

ところが、1学期の終わり頃、初めての学級

担任をしているMM先生から、「生徒たちに自主性を育てたいのですが、どうしたら良いのでしょうか。」と相談を受けました。私は「いろんなやり方があるだろうけれど、自分は自問清掃という方法しか知らないよ。」と答え、資料を提供しました。しばらくすると、「2学期から自問清掃やります！」とのこと。「え?!ちょっと待って!そんなに簡単なものじゃないかもよ～」ということでストップをかけました。でも、そのMM先生の一言で一気に学年が動き始めました。結果的に11月から塩尻中学校1学年の自問清掃「心磨き清掃」が始まったのです。

まだまだ始めたばかりなのですが、生徒たち

の掃除がどんどん変化していくのが分かります。そして何より先生方が、生徒の良さに目を向けるようになってきたように思います。新年度になり進級したり学年職員が変わったりしますが、どのように発展していくのかとても楽しみです。もしかすると28年度は、全国の皆様に見ただけのかもしれませんが……。あまり期待しないで、温かく見守ってください。

改めて感じていることは、たった一人の情熱が職員集団を動かすということです。この情熱が持てなくなったら、この仕事をやめるときだなと思いました。

第24回全国自問教育の会 開催決定!

第24回全国自問教育の会の開催日・会場校が決定しました。5年ぶりに小学校での開催となります。多くの先生方のご参加をお待ちしております。

開催日：11月13日(金)、14日(土)

会場校：長野県茅野市立湖東小学校



湖東小学校では、6学年で取り組んでいます。5学年の9月に自問清掃を導入し、現在、8カ月目の挑戦に入っています。1学年では、長年自問清掃に取り組んできた先生が自問清掃への導入の準備を進めているところです。

この自問清掃に取り組み始めて、「自分は成長し

た」と実感している子どももいます。ただ黙ってやらされていた掃除から、自ら動き出すことで楽しく活動できる時間への変貌していきました。本来持っている子どものやる気に満ちた姿が様々な学習場面で発揮されていると感じます。子どもの姿を語り合う2日間を楽しみにしています。

《編集後記》

11月21日22日の2日間にわたって行われた、全国自問教育の会も全国各地より参加者を集めて無事に終えることができました。今回、私は1日目しか参加できなかったわけだが、この大会で出会った全国各地で同じ思いを持って日々子どもと向き合っている先生方と出会い、また、再会できることに大きな喜びと勇気を感じます。

松川中学校は、事務局の理事でいらっしゃる鎌倉正之先生が平成11年に自問清掃を始めた学校です。それ以来、先生方が入れ替わる中、自問清掃の理念を受け継ぎ、継承してきていることに大きな意味があるのではないかと思います。今回研究に取り組んでいただいた先生方は、当時を知らない先生方ばかりであったと思いますが、学ぶ心もち、研究主任の先生も指導案を持って事務局会に参加していただけていました。この教師が学ぶこそ、我々が学ばなければならないところではないかと思うのです。

来年度は、私が所属する長野県茅野市立湖東小学校にて、大会を開催してほしいとの声がかかりました。大きな学びの場をいただきました。多くの先生方にご意見をいただけるのを楽しみにしています。

最後に、諸事情により会報の発行が滞ってしまいました。楽しみにお待ちいただいていた方には、ご心配をおかけしました。お詫び申し上げます。

(文責：片岡)

